第1章　全体構想

１．山口市の現状

１．１．位置・地勢

- 山口県の中央に位置し、市域は県下で最も広い
- 山地から平野部、海に至る多様な地勢を有し、地域資源が豊富である
- 広域交流拠点としての優位性を備えている

本市は、山口県の中央部に位置し、南は瀬戸内海に面し、北は島根県、萩市、東は防府市、周南市、西は宇部市、美祢市と隣接しています。東西約 46km、南北約 58km の広がりを有し、面積は約 1,023.31k㎡と、県下では最も広い行政区域面積を有しています。

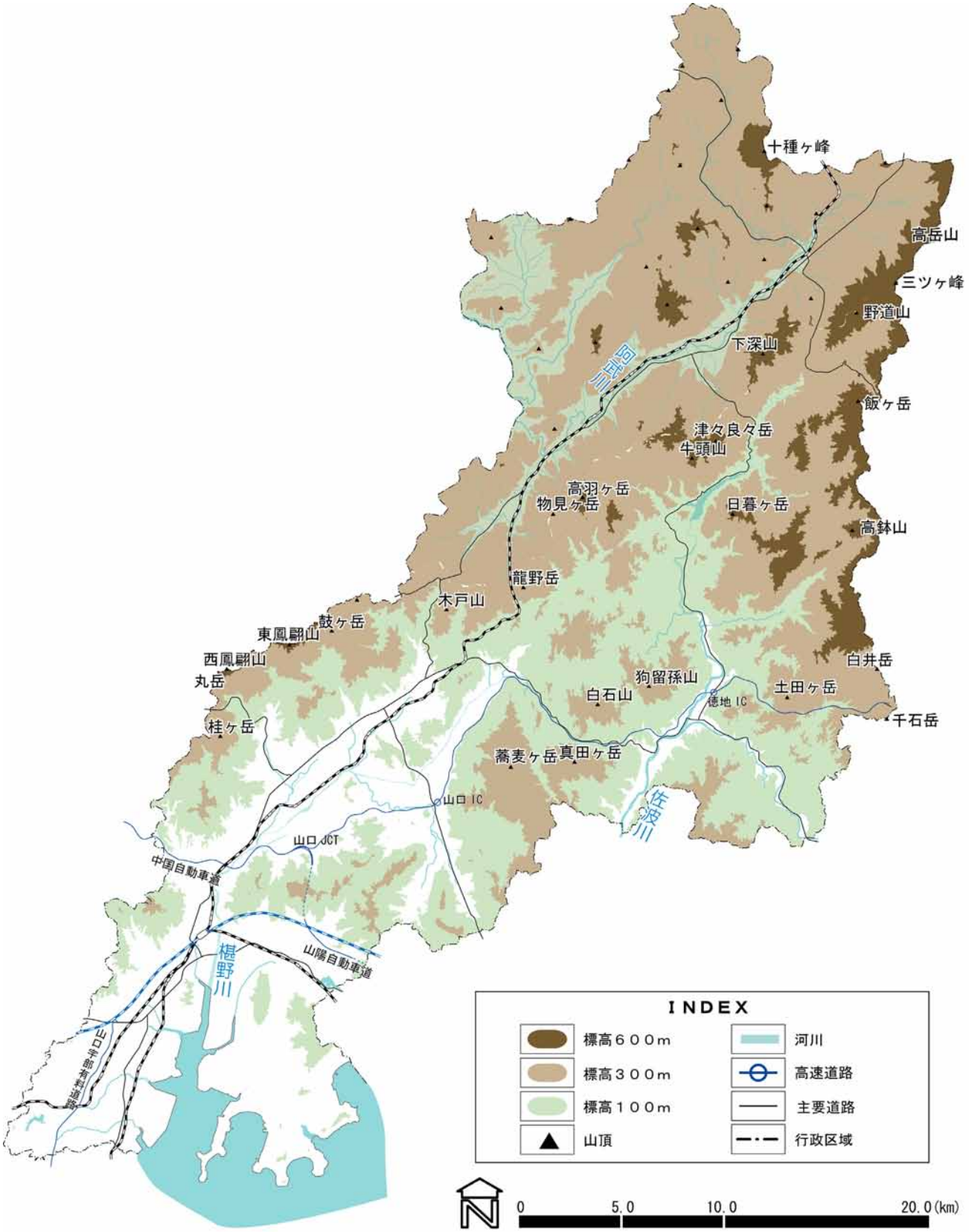
地勢は、北に中国山地を背負い、南に瀬戸内海を臨む南北に長い形状で、地形を大別すると、北部の山地、中部の盆地、南部の平地･干拓地からなり、北部及び市縁辺部の山地から端を発する椹野川及び佐波川が盆地、南部の臨海平野を経て瀬戸内海に流れ込み、阿武川が阿東地域を経て、萩市より日本海へ注いでいます。

市街地は盆地の平野部及び幹線道路沿いを中心に形成されており、市街地周辺や南部の平野部及び北部の山間部において農山村集落が散在しています。また、南部の干拓地を除く瀬戸内海沿岸に、漁村集落の形成が見られます。

また、主要な幹線道路が東西南北に走り、県内の主要な都市に 1 時間以内で移動できるとともに、高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港といった広域高速交通網との接続の便もよく、広域交流の拠点としての優位性を有しています。

なお、平成 17 年 10 月及び平成 22 年 1 月の 2 度にわたる 1 市5町の合併により、広域化した市域において、旧市町の各中心地域に都市機能や居住地の集積がみられることから、市内に複数の地域の拠点が点在しています。

■　山口市の地勢

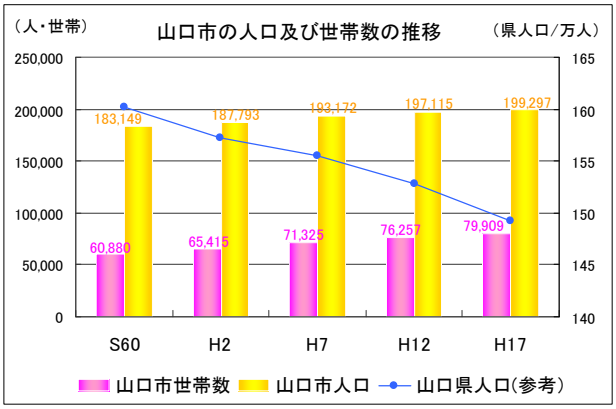

十種ヶ峰
高岳山
三ツヶ峰
野道山
下深山
飯ヶ岳
津々良々岳
牛頭山
高羽ヶ岳
物見ヶ岳
日暮ヶ岳
高鉢山
龍野岳
木戸山
鼓ヶ岳
東鳳翩山
西鳳翩山
丸岳
桂ヶ岳
白井岳
狗留孫山
白石山
土田ヶ岳
徳地 IC
千石岳
蕎麦ヶ岳
真田ヶ岳
山口 IC
佐波川
山口 JCT
中国自動車道
山陽自動車道
椹野川
山口宇部有料道路
INDEX
標高６００ｍ
標高３００ｍ
標高１００ｍ
山頂
河川
高速道路
主要道路
行政区域
0
5.0
10.0
20.0(km)

１．２．人口

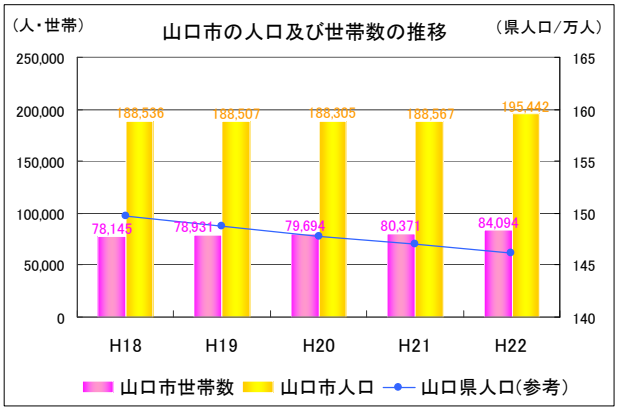
- 市全体の人口は増加傾向にあるが、今後は減少に転じると予想される
- 地域別人口では、依然増加が予測される地域も見られる
- 市全体で少子高齢化が進行しており、特に、農山村部の高齢化が著しく、少子高齢化社会への対応とともに地域の担い手の確保などの対応が必要と考えられる

（１）人口・世帯数の推移

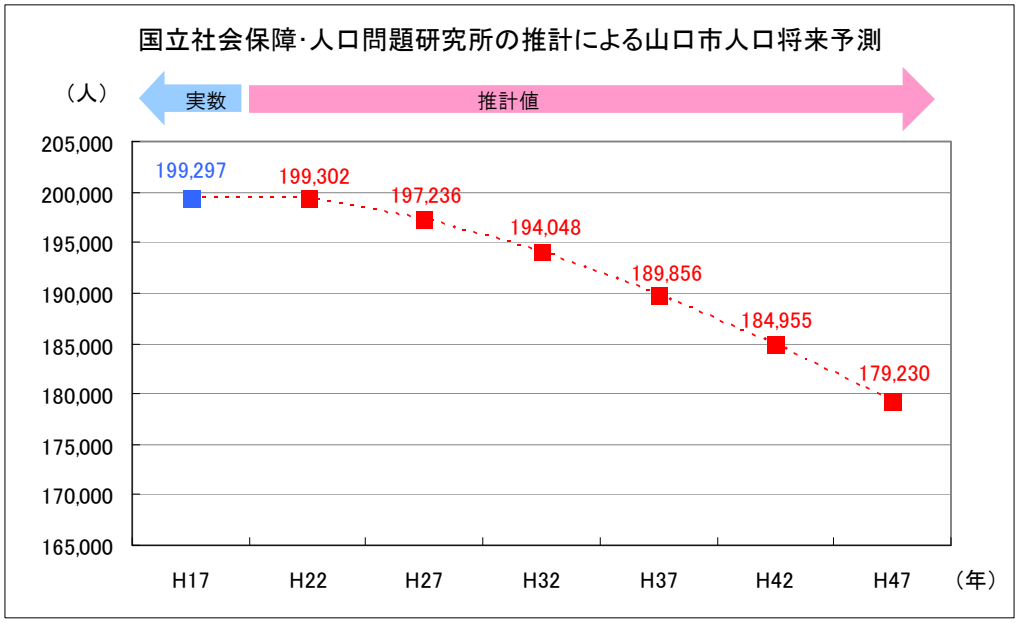
国勢調査における平成 17 年の山口市の人口は約 19.9 万人、世帯数は 7.9 万世帯であり、昭和 60 年以降、山口県全体における人口が減少している中、山口市の人口及び世帯数は一貫して増加傾向が続いています。しかしながら住民基本台帳をベースとした直近の人口推移においては、平成 18 年からほぼ横ばいになっており、国立社会保障・人口問題研究所の推計においては、今後山口市の人口は減少に転じると予測されています。



出典：国勢調査



出典：住民基本台帳



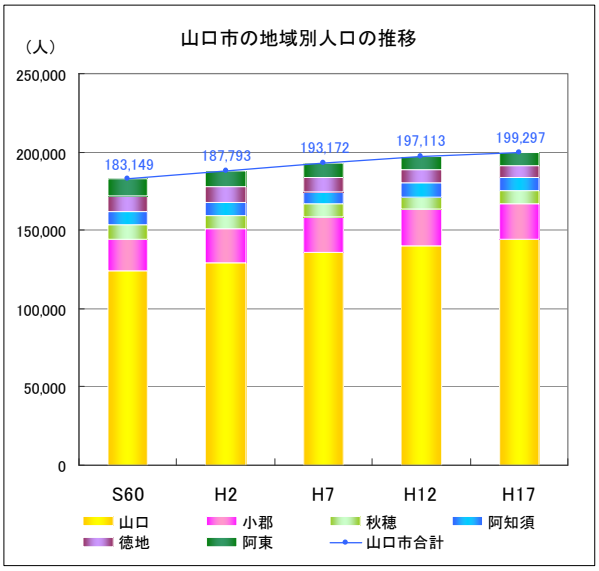
（２）地域別人口及び世帯数の推移

地域別に見る人口及び世帯の割合は、平成 17 年現在で、山口地域が最も多く、市全体の約 7 割を占めています。次いで小郡地域、阿知須地域、秋穂地域、徳地地域、阿東地域の順となっています。

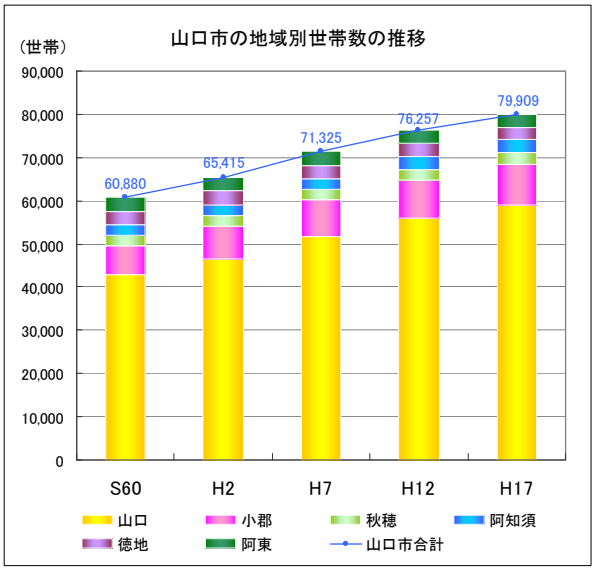
過去 20 年間(昭和 60 年～平成 17 年)における人口の推移としては、増加傾向にあるのが山口地域･阿知須地域であり、増加後減少に転じているのが小郡地域、減少傾向が見られるのが秋穂地域、徳地地域、阿東地域となっています。特に、農山村を中心とする地域での人口減少は著しく、地域の活力低下が懸念されます。

また、山口地域を地区別にとらえた人口増減における特性は、旧市の中心部である大殿、湯田地区では減少傾向が続いているのに対し、周辺の宮野、大内、吉敷、平川、大歳地区では増加していることから、中心部の空洞化がやや進行していることがうかがえますが、白石地区の人口や、人口集中地区の面積及び密度がともに増加傾向にあることから、総体的には市街地が密度を保ったまま広がりをみせているといえます。

小郡地域においては、DID地区*の面積は、近年ほぼ横ばいにあり、密度は減少に転じていますが、人口総数における大幅な減少は見られないことから、地域内縁辺部での大規模宅地開発やJR新山口駅南側地区における新市街地における人口の定住が進行していると考えられます。

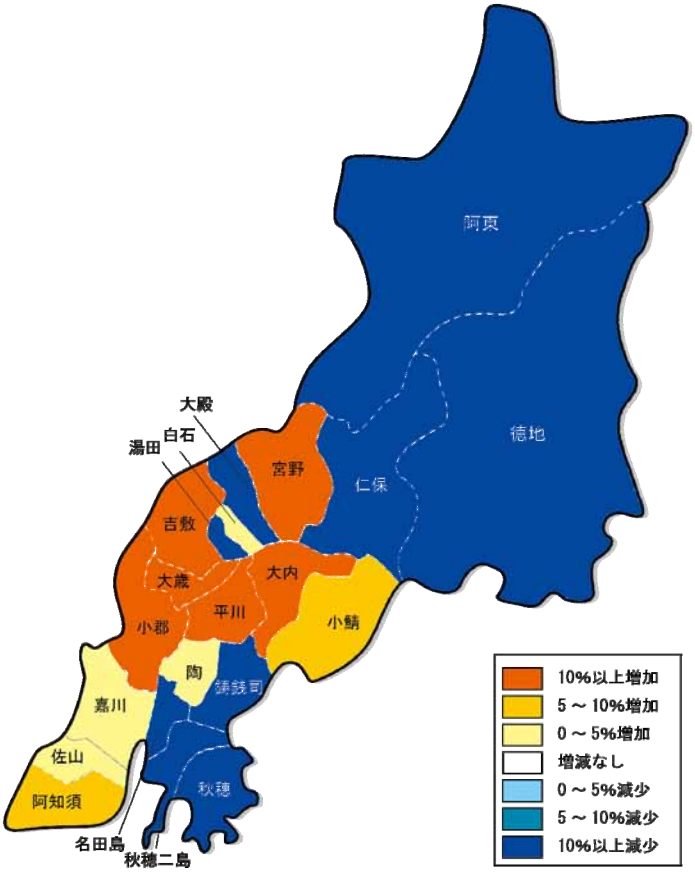


出典：国勢調査



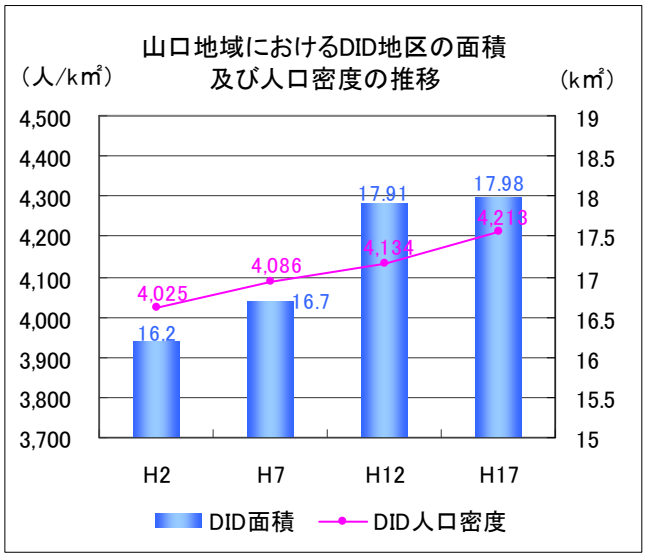
出典：国勢調査

■過去 20 年間(昭和 60 年～平成 17 年)における人口増減

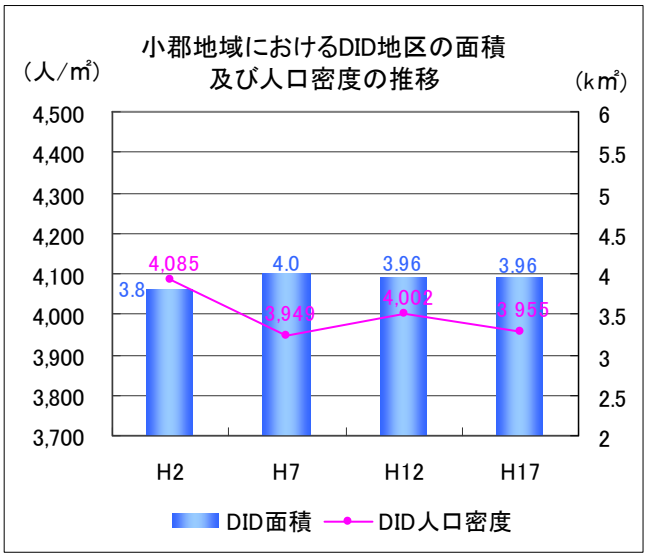


地　域		S60	H17	増減率
山口地域	大　殿	11,671	8,059	-30.9%
	白　石	9,726	10,064	3.5%
	湯　田	15,076	13,430	-10.9%
	仁　保	4,239	3,721	-12.2%
	小　鯖	4,779	5,066	6.0%
	大　内	14,220	21,494	51.2%
	宮　野	12,863	15,343	19.3%
	吉　敷	8,549	14,494	69.5%
	平　川	13,275	19,380	46.0%
	大　歳	8,023	12,842	60.1%
	陶	2,715	2,733	0.7%
	鋳銭司	3,809	3,369	-11.6%
	名田島	1,889	1,504	-20.4%
	秋穂二島	3,547	2,827	-20.3%
	嘉　川	7,016	7,055	0.6%
	佐　山	2,816	2,876	2.1%
小郡地域		20,116	23,009	14.4%
秋穂地域		8,997	7,697	-14.4%
阿知須地域		8,407	9,031	7.4%
徳地地域		10,571	7,683	-27.3%
阿東地域		10,845	7,620	-29.7%
山口市合計		**183,149**	**199,297**	**8.8%**

出典：国勢調査



出典：国勢調査

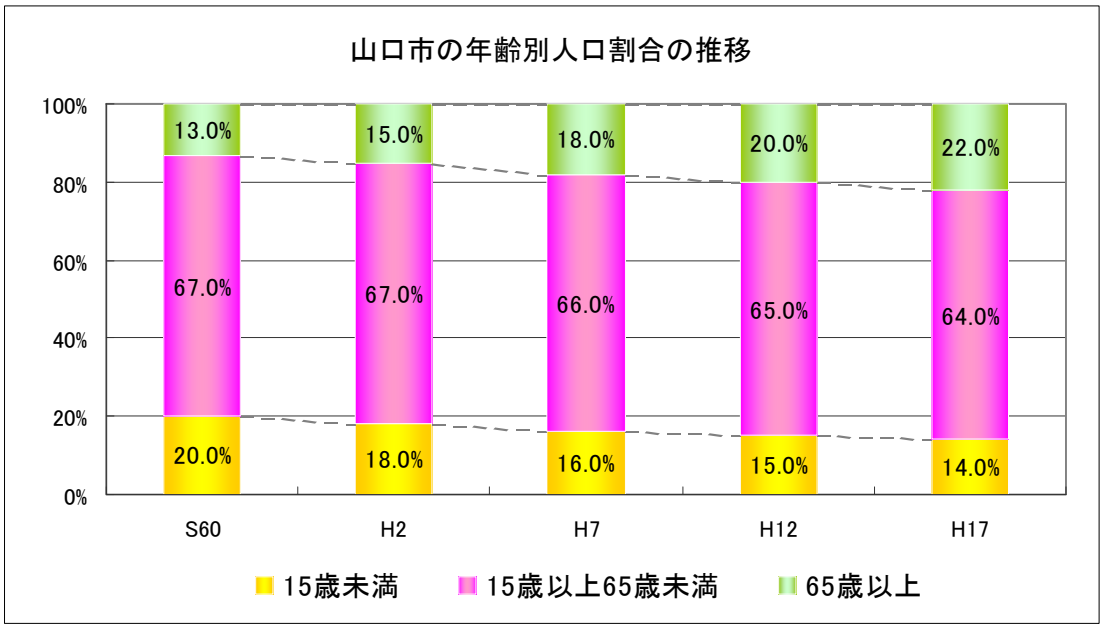


出典：国勢調査

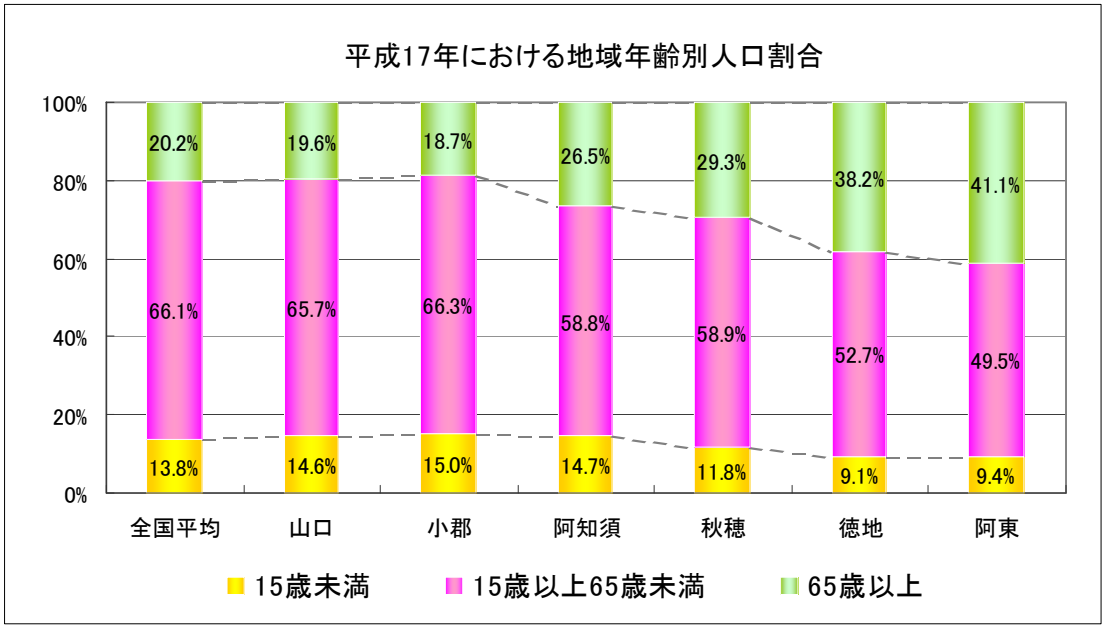
（３）年齢別人口割合の推移

山口市全体の年齢別人口割合の推移から、年々、年少人口（15 歳未満）、生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）の占める割合が低下するとともに、老年人口（65 歳以上）の占める割合が増加していることがうかがえます。

また、地域別年齢別人口構成によると、平成 17 年現在で全国平均の高齢化率*が 20.2%であることに対し、山口市では阿東、徳地、秋穂、阿知須の4つの地域が全国平均を大きく上回る高齢化率を示しています。また年少人口については、全国平均が 13.8%ですが、阿東、徳地、秋穂の3つの地域がその数値を下回っているなど、少子高齢化に対応した都市づくりが必要となっています。



出典：国勢調査



注）構成比は四捨五入し表記しているため、合計が 100%にならないことがある

出典：国勢調査

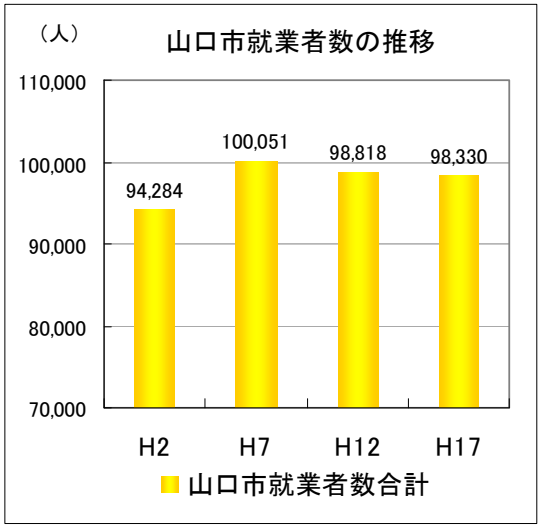
１．３．産業

- 本市は第３次産業の割合が、就業人口、市内総生産額ともに非常に高い
- 第１次産業、第２次産業の就業者数及び市内総生産額はともに減少傾向にある
- 農業・工業・商業における生産額・出荷額・販売額は、減少あるいは横ばい状態にある
- 豊かな観光資源を背景に、観光客数は増加傾向にある

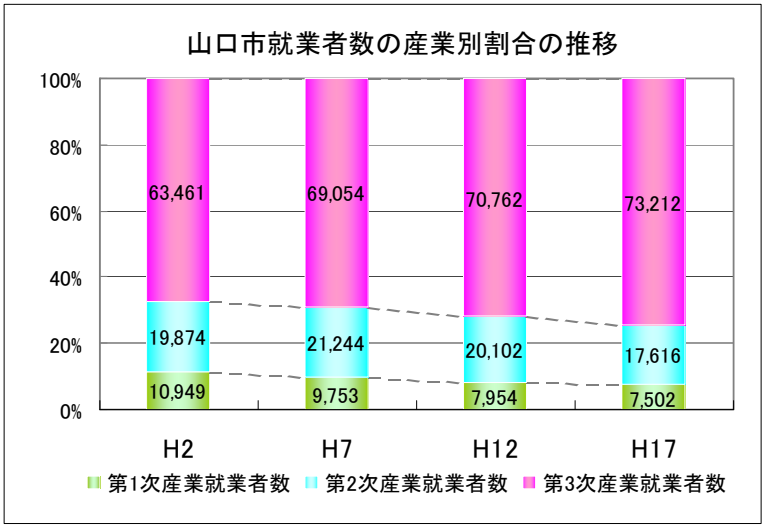
（１）就業人口

市全体の就業人口は平成７年以降、減少傾向にある中、第１次産業、第２次産業ともに減少傾向が続いています。一方、第３次産業は増加傾向が見られ、平成17年には全体の約75%を占めています。第３次産業は今後も就業人口が増加することが見込まれますが、第１次産業、第２次産業の就業人口は減少していくと考えられることから、農地、山林などの保全や農山村地域における担い手などの育成に関する課題を抱えているといえます。

また、地域別に就業構造をみると、山口、小郡、阿知須地域では第３次産業に従事する人の割合が７割以上を占めているのに対し、秋穂、徳地、阿東地域では第１次、第２次産業の比率が５割前後と高くなっています。

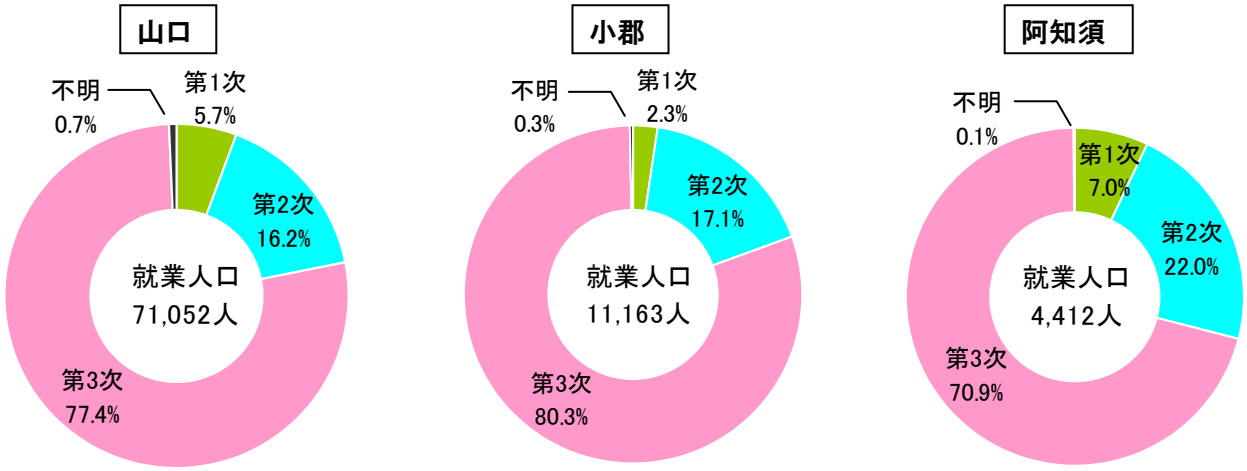


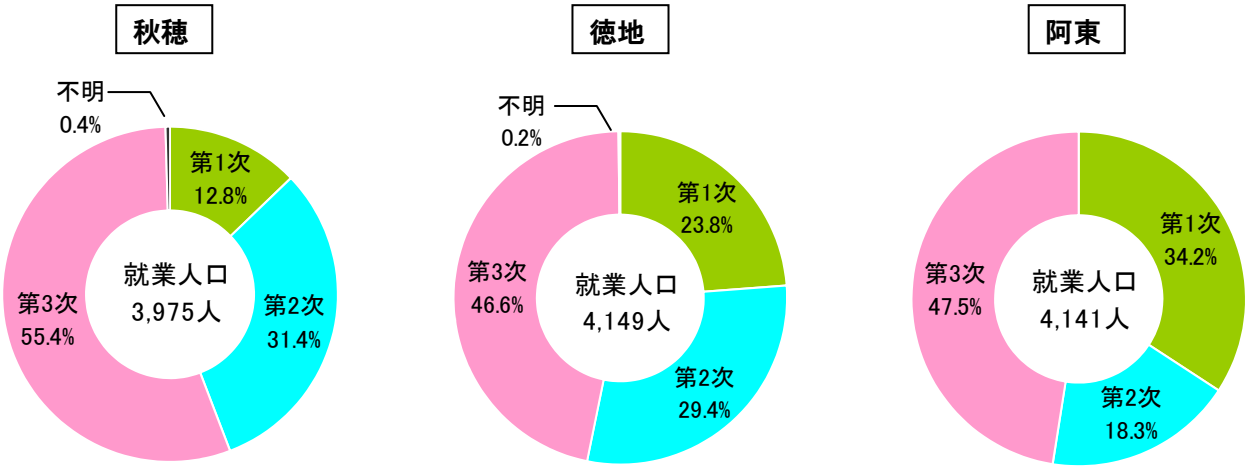
出典：国勢調査



出典：国勢調査

■地域別の就業構造（H17）



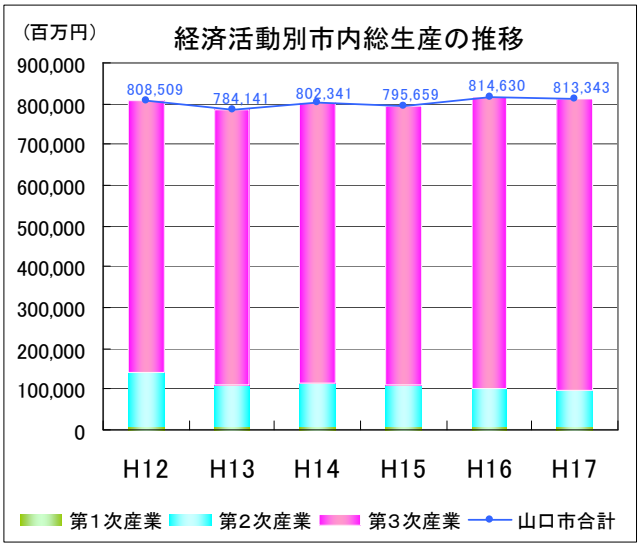


出典：国勢調査

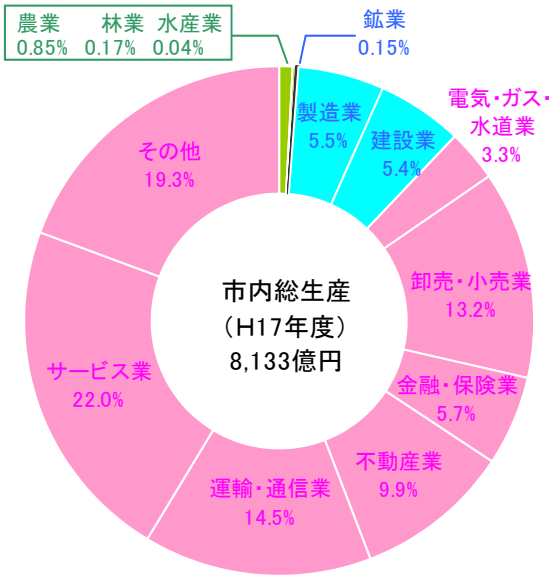
（２）産業構造

１）産業構造

本市の市内総生産は、近年ほぼ横ばいで推移しています。経済活動別総生産の約 88%が第 3 次産業によるものであり、サービス業を中心とする、本市の産業構造の特性となっています。



出典：山口県 H19 年市町民経済計算



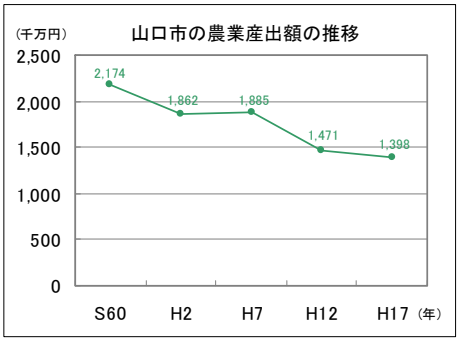
注）構成比は四捨五入し表記しているため、合計が 100%にならないことがある

平成 17 年度における山口市経済活動別市内総生産の割合　（単位：百万円）

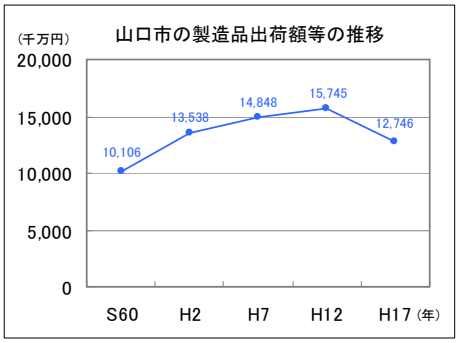
第１次産業			第２次産業			第３次産業						
農　業	林　業	水産業	鉱　業	製造業	建設業	電気・ガス・水道業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	運輸・通信業	ｻｰﾋﾞｽ業	その他
6,926	1,395	289	1,213	44,397	44,162	26,705	107,450	46,335	80,405	117,776	178,972	157,318
8,610			89,772			714,961						
1%			11%			88%						

２）農業・工業・商業

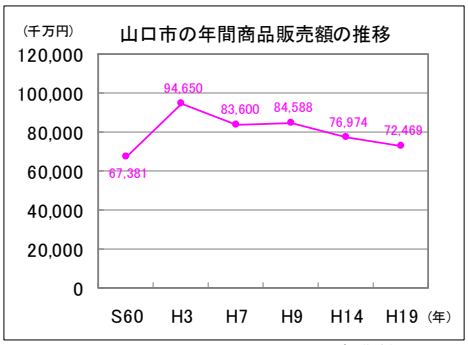
農業産出額は、減少傾向が続き、過去 10 年間で約 25.8%減少しています。製造品出荷額等は、平成 12 年までは増加傾向にありましたが、平成 17 年には減少に転じています。年間商品販売額は、平成3年をピークに、平成7年から平成19年にかけて、横ばいの状態から減少傾向の状態がみられます。



出典：山口県統計年鑑



出典：工業統計調査



出典：商業統計調査

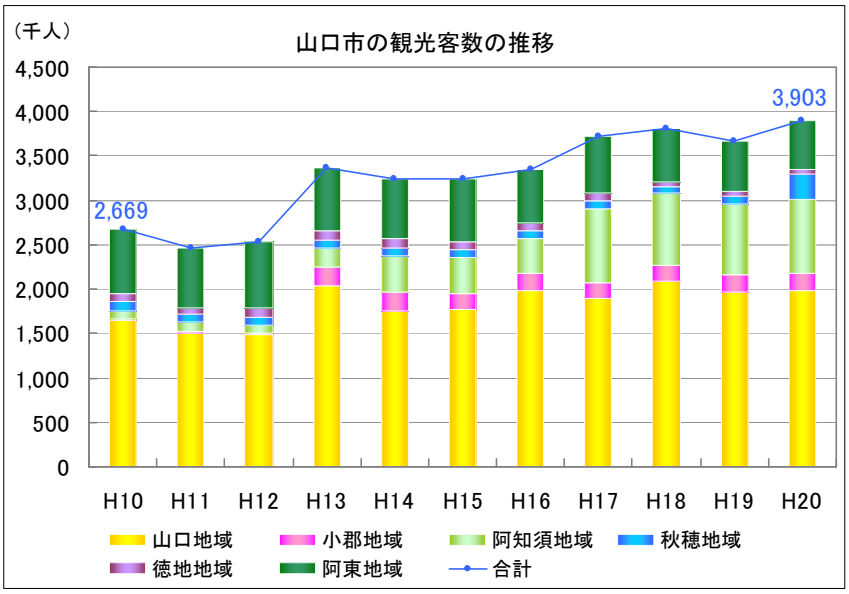
３）観光

本市は、室町時代の栄光を今に伝える史跡やまちなみ、明治維新に関連する建築物やゆかりの地などをはじめとした、多くの歴史的財産が残っています。

また、市街地の中に、歴史ある大規模な温泉街を有するとともに、桜並木の名所であり、国の天然記念物に指定されたゲンジボタルが生息する一の坂川が流れるなど、都市と自然が共生する豊かな環境を有しています。郊外に目を向けると、中国山地から瀬戸内海に至る広域な市域において、山口県を代表する渓谷である長門峡や、森林セラピー*基地など、山、川、海の豊かな自然と豊富な食材に恵まれています。また、広域交通結節点*としての機能を備えたJR新山口駅を出発点として、市域を縦断するJR山口線においては、SLやまぐち号が運行され、県内外からの観光客が訪れています。

こうした中、観光客総数は近年増加傾向を見せていますが、これは阿知須地域の道の駅開業によるところが多く、その他の地域では横ばいあるいは減少傾向が見られます。

今後は、既存の観光資源や各地域の豊かな自然や食材等の資源を活用し、新たな産業の創出を促進するなど、魅力ある地域づくりを推進し、市民の雇用や所得の確保を図ることが望まれます。



出典：観光客動態調査

１．４．土地利用

- 市域のうち、８割近くを山林が占め、残る２割が農地及び市街地として利用されている
- 都市計画区域における用途地域*の割合は約 12%で、残りは白地地域となっている
- 山林及びまとまりのある優良な農地においては、保安林*、農用地などの規制が適用されている
- 農地転用による土地利用転換に伴い、白地地域での宅地化が進行している

（１）市全体の土地利用現況

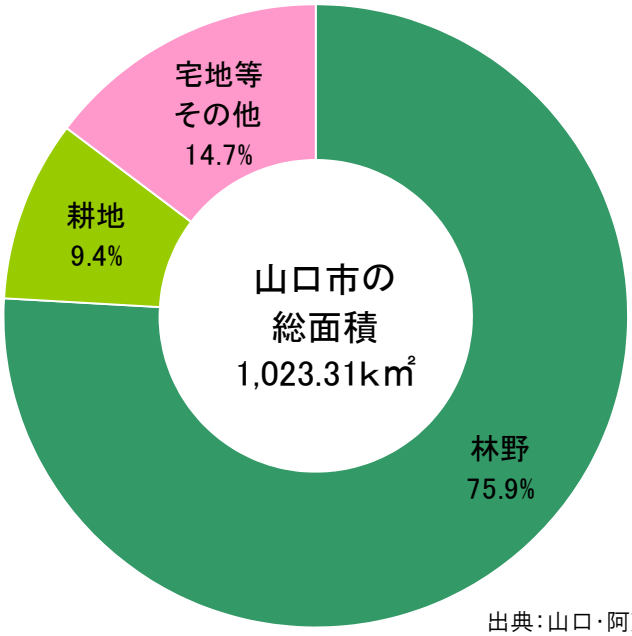
本市の土地利用は、山林や農地といった自然的土地利用*と、都市的土地利用*である市街地に大きく分類することができます。特に山林の占める割合は高く、市域面積の約 76%が山林となっています。

地域を大別してみると、山口市北部においては、中国山地から連なる奥深い森林及び山間の農地に農山村集落が散在するとともに、気候風土を生かした果樹園などの土地利用が特徴的です。

中部においては、周囲を取り囲む山地を背景に、大内氏の時代に形成された市街地及び温泉地を中心に比較的密度の高い市街地が形成され、その背後の平野部に農地が広がっていますが、幹線道路沿いにおいては農村集落と一般住宅が混在している区域が見られます。

南部においては、旧街道沿い及び鉄道などの広域交通結節点を中心に市街地が発達しているとともに、広大な干拓地や臨海平野において大規模な農業が営まれており、農村集落の形成が見られます。また瀬戸内海沿岸部に漁村集落の形成が見られます。

■山口市の土地利用別面積割合



出典：山口・阿東新市基本計画

（２）法適用状況

本市の行政区域は山口、小郡、秋穂、阿知須の4つの都市計画区域と、都市計画区域外の区域に大別することができます。

都市計画区域は市域の約 36%を占めており、そのうち約 12%の区域に用途地域が指定されていますが、残りの区域は豊かな自然環境を主体とした用途地域の指定のない地域（以下、白地地域）となっています。

用途地域は市街地を中心とした平野部や交通利便性の高い位置に計画的に立地された工業団地などに指定され、計画的な土地利用の誘導が図られています。

白地地域及び都市計画区域外においては、山林の多くが地域森林計画対象民有林*（保安林含む）に指定されており、まとまりのある農地の多くが農用地に指定されています。

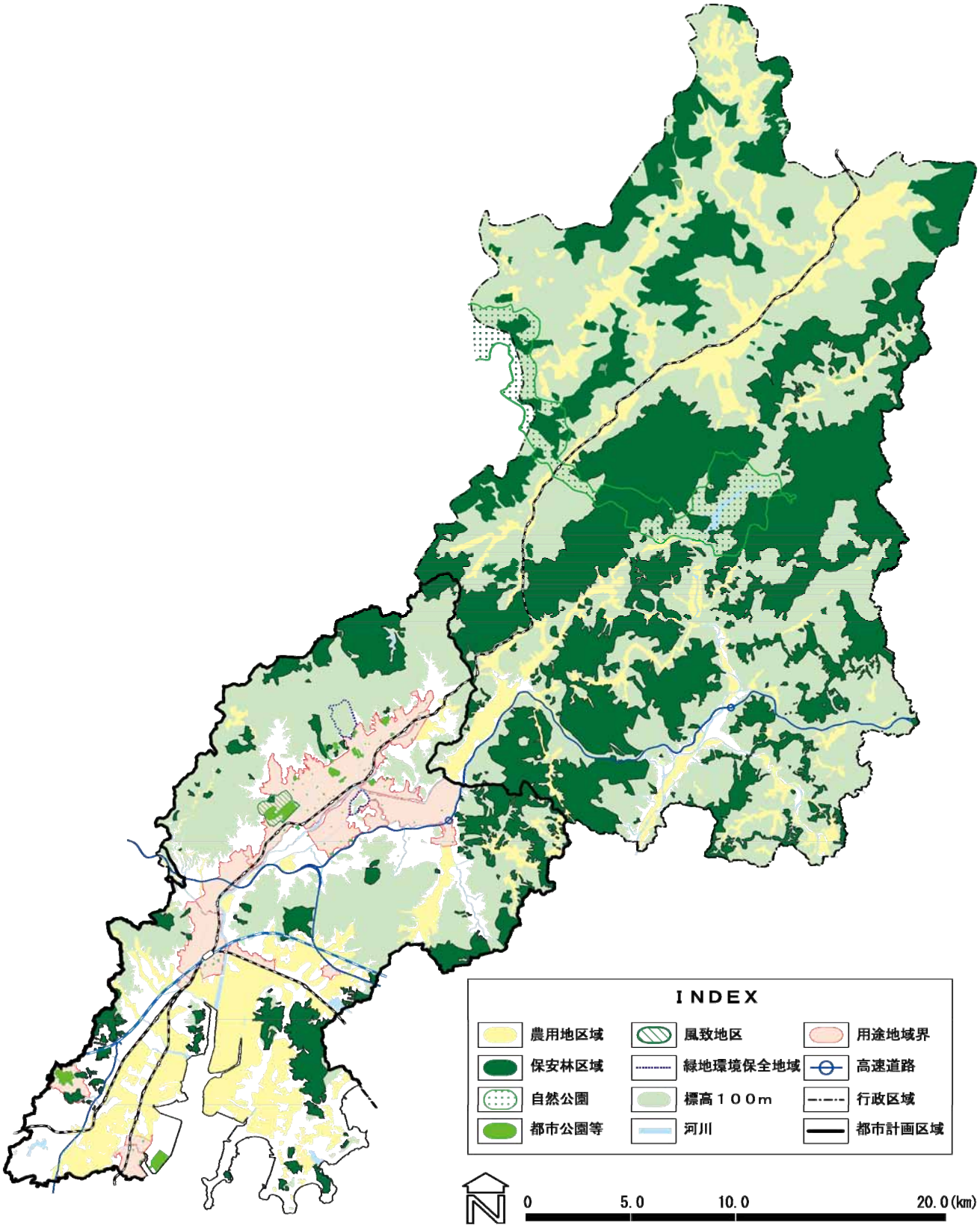
その他、徳地地域の大原湖周辺から隣接する阿東地域にかけて、長門峡県立自然公園*が指定され、良好な自然環境が保全されています。

■都市計画区域の指定状況

行政区域	行政区域面積（ha）（A）	都市計画区域名	都市計画区域面積（ha）（B）	用途地域面積（ha）（C）	白地地域面積（ha）	都市計画区域外面積（ha）	（B）／（A）	（C）／（B）
山口地域	35,690	山口	28,405	3,398	25,007	7,285	80%	12%
小郡地域	3,340	小郡	3,238	895	2,343	102	97%	28%
秋穂地域	2,409	秋穂	2,409	0	2,409	0	100%	0%
阿知須地域	2,549	阿知須	2,549	215	2,334	0	100%	8%
徳地地域	29,035	－	－	－	－	29,035	－	－
阿東地域	29,308	－	－	－	－	29,308	－	－
合計	**102,331**		**36,601**	**4,508**	**32,093**	**65,730**	**36%**	**12%**

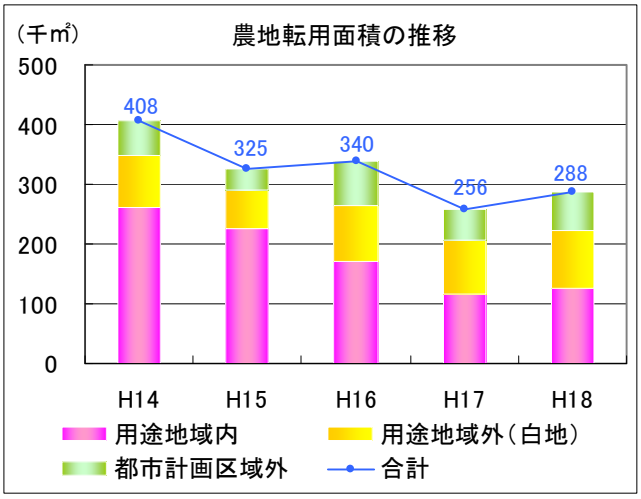
出典：山口市の都市計画（数値は H23.3.31 現在）

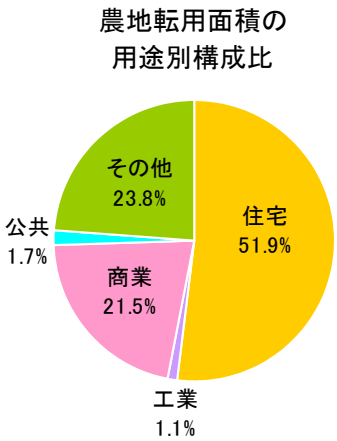
■山口市の土地利用（法適用状況）



（３）農地転用*に見る土地利用の動向

本市における農地転用面積の推移は、景気の低迷などを反映して減少傾向にあり、農地転用面積全体に占める用途地域の転用面積の構成比は、減少傾向が見られます。一方で、白地地域の転用面積の構成比は、増加傾向がうかがえます。また、農地転用後の用途は住宅が約5割を占めており、商業、工業を含めると 7 割を超えることから、白地地域での市街化が進行していることがうかがえます。

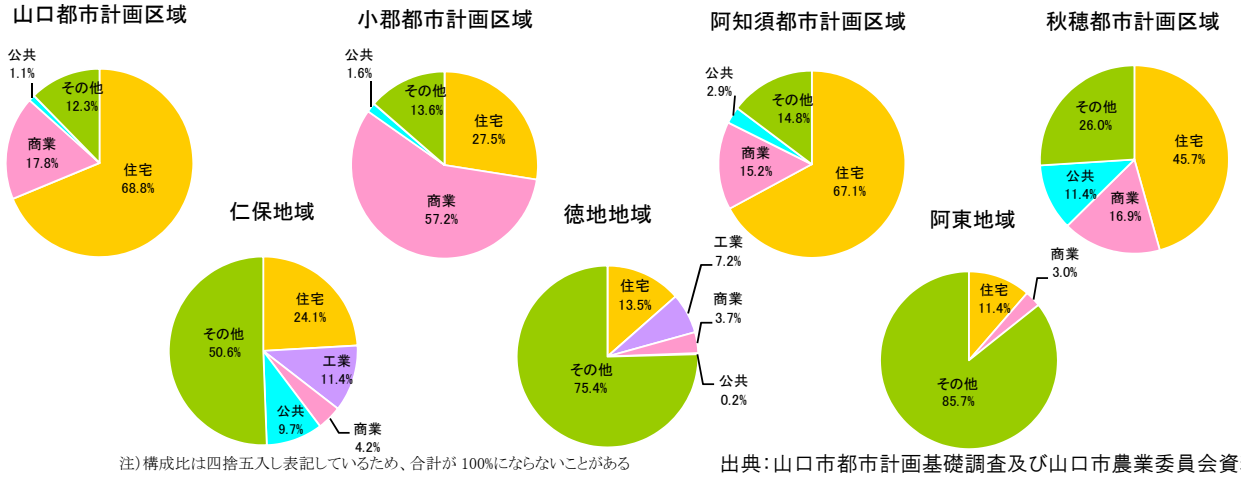




出典：山口市都市計画基礎調査及び山口市農業委員会資料

地域別に見ると、各都市計画区域では、住宅・商業用地等への転用が半数以上を占めているのに対し、都市計画区域外では、その他（植林等）への転用割合が高いといえます。また、都市計画区域のうち、阿知須都市計画区域の農地転用は白地地域の割合が非常に高く、白地地域での開発圧力が高いことがうかがえます。

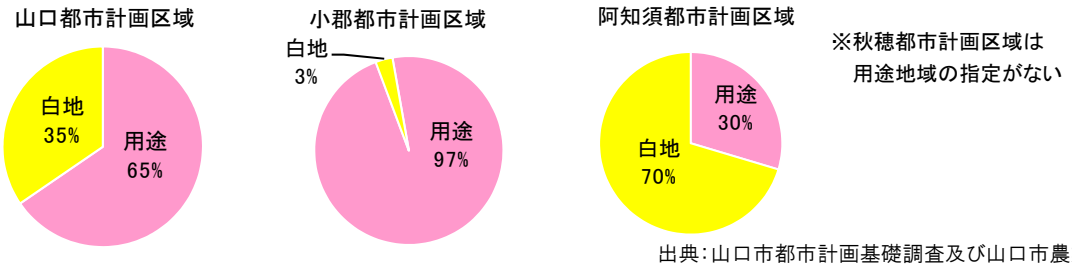
■地域別の農地転用面積用途別構成比（H14-H18）



注）構成比は四捨五入し表記しているため、合計が 100%にならないことがある

出典：山口市都市計画基礎調査及び山口市農業委員会資料

■都市計画区域における用途地域・白地地域別の農地転用面積比（H14-H18）



※秋穂都市計画区域は
用途地域の指定がない

出典：山口市都市計画基礎調査及び山口市農業委員会資料

１．５．交通

- 道路は国道及び高速自動車道を中心として、市内外を連絡する幹線道路が整備されているが、広域化した市域における地域間の連携強化や交通渋滞の解消、及び災害時における役割強化などの対応が望まれる
- 鉄道・バス・タクシーの利用については、利便性の向上などの更なる機能強化が望まれるとともに、公共交通の不便・空白地域における対応が望まれる

（１）道路

本市の道路体系は、市域を南北に縦断する国道９号、市域南部を東西に連絡する国道２号及び山陽自動車道、市域中部を東西に連絡する中国自動車道、及び市域中部と防府市を結ぶ国道 262 号が骨格を成す構造となっています。

主な市街地間は国道により連絡され、交通利便性が比較的高い状態となっていますが、市街地周辺では慢性的な交通渋滞が発生している箇所があるとともに、山間部においては降雨、積雪の状況によっては通行止めが発生する区間があり、災害時における幹線連絡路としての整備が不足しています。

また、昔ながらのまちなみや小規模宅地開発地内における生活道路においては、狭隘な道路が多く、環境改善が望まれます。

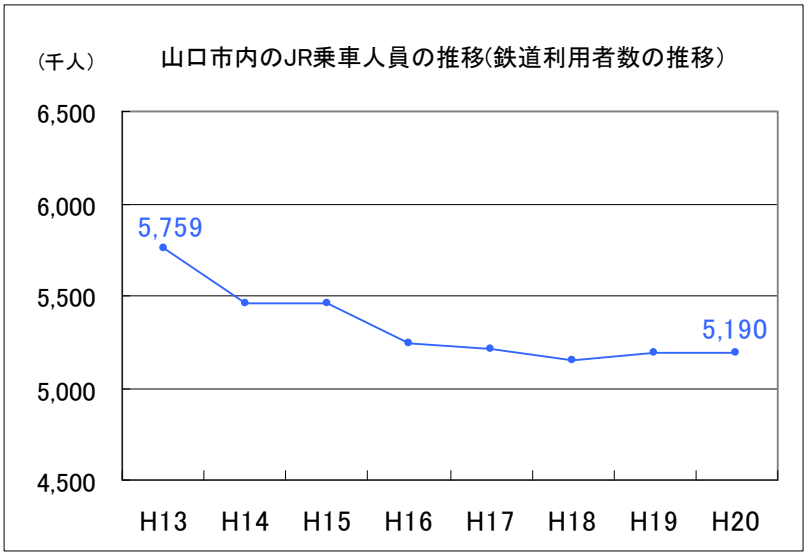
なお、近年では、国道の渋滞解消と都市間連携の強化を目的とした山口宇部小野田連絡道路、山陰と山陽を縦断的に結ぶ小郡萩道路の一部区間の整備や、小郡地域における国道 9 号の拡幅などが実施されており、都市の利便性及び地域間連携の向上が図られています。

（２）公共交通

１）鉄道

本市には、新幹線「のぞみ」が県内で最も多く停車する山陽新幹線新山口駅が設置されており、市を南北方向に縦断するJR山口線、JR宇部線、東西を連絡するJR山陽本線が、いずれも新山口駅で接続するなど、広域交通結節点として、県内随一の優位性を有しています。

JR山口線では、新山口駅を発着駅としてSLやまぐち号が運行されており、本市の特色ある



出典：山口県統計年鑑

景観を創出しています。

また、JR新山口駅の利用者数は近年増加傾向にあり、今後、九州新幹線との連絡による更なる利用者の増加が期待されます。

しかしながら、マイカー社会の進行の中、在来線を含む鉄道駅利用者数は年々減少傾向にあり、他の交通機関との接続や施設の利用しやすさなどの利便性の向上、観光やコンベンション*との連携などによる鉄道利用者数の増加が望まれます。

２）バス・タクシー

本市では、民間事業者2社と宇部市交通局により、路線バスが運行されており、市内の地域間や周辺市町とを連絡しています。また、平成23年 3 月現在における市内のタクシー事業者数は20事業者となっています。

バス網は、山口地域の中心部と湯田温泉、JR新山口駅及び防府市間、又はJR新山口駅周辺において本数が多い一方、山口の中心部と徳地、阿東などの中山間地域を結ぶ路線や南部の地域間での路線が不足しています。

こうした中、地域間の連絡性の向上に向け、近年、小郡－阿知須、山口－阿東、秋穂―阿知須間について、路線バスの新設・拡充が行われています。また、公共交通の不便・空白地域解消のため、コミュニティバスの運行やコミュニティタクシーの運行に加え、グループタクシー制度*の導入が行われています。

１．６．都市基盤整備状況

- 都市計画道路の整備率は比較的高いが、必要性の高い未整備区間の早期整備による、適切な都市計画道路網の構築が望まれる
- 都市計画公園の整備は比較的進んでいるが、大規模公園の整備に対して身近な公園整備が不足している区域がみられる
- 下水道は地域の特性に応じた事業形態で整備が促進されているが、市街地における普及率は高くなく、地域によって偏りがみられる

（１）都市計画道路

本市では、山口、小郡、阿知須都市計画区域内に、68 路線の都市計画道路が決定されています。全計画決定延長 173.62kmに対しての改良済延長は 131.45kmであり、整備率は 75.7%と、県内の他都市と比較しても高い整備率といえます。

地域別の整備率を見ると、山口都市計画区域では整備率が 77.1%、小郡都市計画区域では 66.8%、阿知須都市計画区域では 81.5%となっており、小郡での整備率が他地域に比べて若干低くなっています。これは、小郡の未整備都市計画道路の多くが、JR新山口駅北側の既成市街地内に決定されており、事業化に伴う既成市街地への影響や事業費の増大が予想されることから、これらの都市計画道路の整備が進んでいないことに起因しています。

■山口市の都市計画道路の現状

都市計画区域名		計画延長（km）	改良済延長※2（km）	整備率※1（%）
区域別	山口	124.01	95.57	77.1%
	小郡	30.92	20.64	66.8%
	阿知須	18.69	15.24	81.5%
	秋穂	0	0	0.0%
山口市　計		173.62	131.45	75.7%
山口県内市町計		1,118.15	641.38	57.4%
全国　計		74,105.60	42,872.92	57.9%

出典：都市計画現況調査（H21.3.31 現在）

※1 整備率　　：（改良済延長/計画延長）

※2 改良済延長：道路用地が計画幅員どおり確保されており、一般の通行の用に供している道路延長（事業中の区間については、事業決定区間の全体事業費に対する当該年度末換算完成延長）

（２）都市計画公園

本市では、山口、小郡、阿知須都市計画区域内において 74 箇所の都市計画公園が決定されています。

計画決定面積 253.59ha に対し、公園供用面積は 173.00ha で、整備率は 68.2%であり、比較的整備が進んでいるものの、一方で、供用面積の大部分を大規模な公園（維新百年記念公園、山口きらら博記念公園等）が占めており、街区公園*などの近隣の住民を対象とした身近な公園の整備が不足している地区も見られます。

市域には、都市計画公園以外にも、都市公園*や河川公園、運動広場など、地域の実情に応じた公園機能を備えた施設があることから、これら施設とのバランスを踏まえた配置、整備が必要です。

また、環境面における公園機能のひとつとして、公園内の緑の育成保全を図るなどの取り組みが必要となっています。

■山口市の都市計画公園の現状

都市計画区域名		計画面積（ha）	供用面積（ha）	整備率※（%）
区域別	山口	206.68	126.09	61.0%
	小郡	2.15	2.15	100.0%
	阿知須	44.76	44.76	100.0%
	秋穂	0	0	0.0%
山口市　計		253.59	173.00	68.2%
山口県内市町計		1,931.05	1,331.39	68.9%
全国　計		111,428.29	73,017.01	65.5%

出典：都市計画現況調査（H21.3.31 現在）

※ 整備率：（供用面積/計画面積）

（３）下水道

本市の下水道は、地域の特性に応じて、公共下水道*と特定環境保全公共下水道*、農業集落排水、漁業集落排水*といった事業により整備されています。

公共下水道及び特定環境保全公共下水道については、平成 22年度末の普及率は 58.6%となっています。また、地域間で普及率に大きな差があり、地域別には、小郡地域が最も高く、秋穂地域が最も低くなっています。

上記の事業計画区域に含まれない地域においては、合併処理浄化槽*の設置助成が行われ、住環境及び自然環境の保全が図られています。

（４）市街地整備等

本市の市街地は、椹野川流域の盆地部を中心に形成されており、JR山口駅周辺や新山口駅周辺などを除いては、住宅を主とした低密度の市街地が緩やかに広がっています。

土地区画整理事業*などの面的一体的な基盤整備は、JR新山口駅南地区や流通団地の造成など、主に新市街地形成のために行われてきており、既成市街地の更新については、山口地域において土地区画整理事業が 2 箇所行われているのみです。

こうしたことから、古くからある市街地については、大内氏時代のまちの区割りなど、歴史的なまちなみを現在に残しているともいえますが、旧来の区画割による細街路を有した市街地が多くみられ、災害時や緊急時における避難路や輸送路に対する課題や、地震や火災などにおける建築物の耐震･耐火性の向上が課題であるといえます。

１．７．市民意向

本都市計画マスタープランの策定にあたり、市民の意向を反映するため、市民アンケート、地域まちづくり審議会ヒアリング、市民懇談会、地域別ワークショップ*を実施しました。

（１）アンケート調査等の概要

内容	実施時期	参加者（回答者）数
市民アンケート	平成 20 年 9 月	1,297 通
地域まちづくり審議会ヒアリング	平成 20 年 11 月	山口 18 名、小郡 12 名、阿知須 12 名、秋穂 12 名、徳地 15 名
市民懇談会	平成 21 年 2 月	山口 7 名、小郡 6 名、阿知須-名、秋穂 9 名、徳地 8 名
地域別ワークショップ	平成 21 年 9 月～11 月	58 名
市民懇談会	平成 22 年 3 月	阿東 17 名

（２）調査結果に見る市民意向

都市づくりに関する市民意向（主なもの）			
土地利用	✓ 生活利便性の高い住環境整備 ✓ 白地地域の開発抑制 ✓ 都市核*を中心に発展していく都市構造の構築	景観形成	✓ 湯田温泉周辺の湯けむり情緒ある景観形成 ✓ 歴史的なまちなみの活用 ✓ 幹線道路、鉄道、河川沿いの花木による景観づくり
市街地整　備	✓ 山口都市核における歴史的な遺産の保存・修復・活用 ✓ 小郡都市核における商業･業務施設や公共公益施設の集積	都市防災	✓ ライフライン*の強化・充実 ✓ 河川や排水施設の整備による水害防止
都市施設	✓ バスの利便性向上のための路線や便数の見直し ✓ 高齢者の移動手段の確保 ✓ 子供たちが気軽に遊べる遊具のある身近な公園整備 ✓ 下水道の整備 ✓ 既存施設の活用	その他	✓ 遊休農地や山林の活用 ✓ 空き家の活用 ✓ 温泉など地域資源の活用 ✓ 旧市町の枠組みを越えた都市づくり
自然的環　境	✓ 山や樹林地、河川沿いの緑の保全 ✓ 美しい自然のレクリエーションや観光資源としての活用		